2014年3月期　第2四半期
決算説明会

2013年11月

日本金銭機械株式会社

代表取締役社長　　上東　洋次郎

ただいまご紹介いただきました、社長の　上東で　ございます。

本日はお忙しい中、弊社の　第2四半期決算説明会に
ご参加いただきまして、誠に有難うございます。

本日は、先ず　はじめに、
2014年3月期　第2四半期決算の概要についてご説明し、
続いて、2014年3月期の通期予測、
そして、最後に推進中であります
中期経営計画の進捗状況について、お話しをさせていただきます。

2014年3月期　上半期の概況

・海外市場

・国内市場

1

進行年度の上半期の 当社グループを取り巻く環境は、
海外市場において、北米地域では、
前期から引き続きゲーミング市場における新規のスロットマシン増設と、
従前に販売した旧タイプの紙幣識別機ユニットの
入替需要が好調であったこと、
また、欧州地域でも紙幣還流ユニットの販売が伸長するとともに、
流通市場向けの大口受注もあり、順調に推移いたしました。

一方の国内市場の遊技場向機器市場では、
パチンコホールの周辺機器への投資意欲の減退による影響から、
販売が低調に推移しております。
また、金融・流通市場では、
OEM先からの多様な市場ニーズ対応の依頼等があり、
あわせてOEM顧客の導入計画の変更等により、
需要が下期以降へ移行することとなりました。

尚、為替レートは、前年同期比では大幅な円安で推移いたしました。

2014年3月期　第2四半期累計業績

単位：百万円

連結経営成績

	2013/3 2Q累計実績	2014/3 2Q累計実績	前年同期比 率	前年同期比 増減額	2014/3 2Q累計予想	期初予想比 率	期初予想比 増減額
売上高	12,239	13,996	+14.4%	1,757	13,900	+0.7%	96
営業利益	861	981	+13.8%	120	920	+6.6%	61
（営業利益率）	(7.0%)	(7.0%)		(±0%)	(6.6%)		(+0.4%)
経常利益	768	1,102	+43.4%	333	970	+13.6%	132
（経常利益率）	(6.3%)	(7.9%)		(+1.6%)	(7.0%)		(+0.9%)
当期純利益	549	671	+22.1%	121	610	+10.0%	61
（当期利益率）	(4.5%)	(4.8%)		(+0.3%)	(4.4%)		(−0.4%)

1株当たり純利益	20.37円	24.88円	+4.51 円	22.61円	+2.27 円
自己資本当期純利益率	2.4%	2.7%	+0.3 %	2.5%	+0.2 %

平均為替レート

米ドル	79.78円	95.90円	+16.12 円	94.00円	+1.90 円
ユーロ	103.76円	125.80円	+22.04 円	120.00円	+5.80 円

2

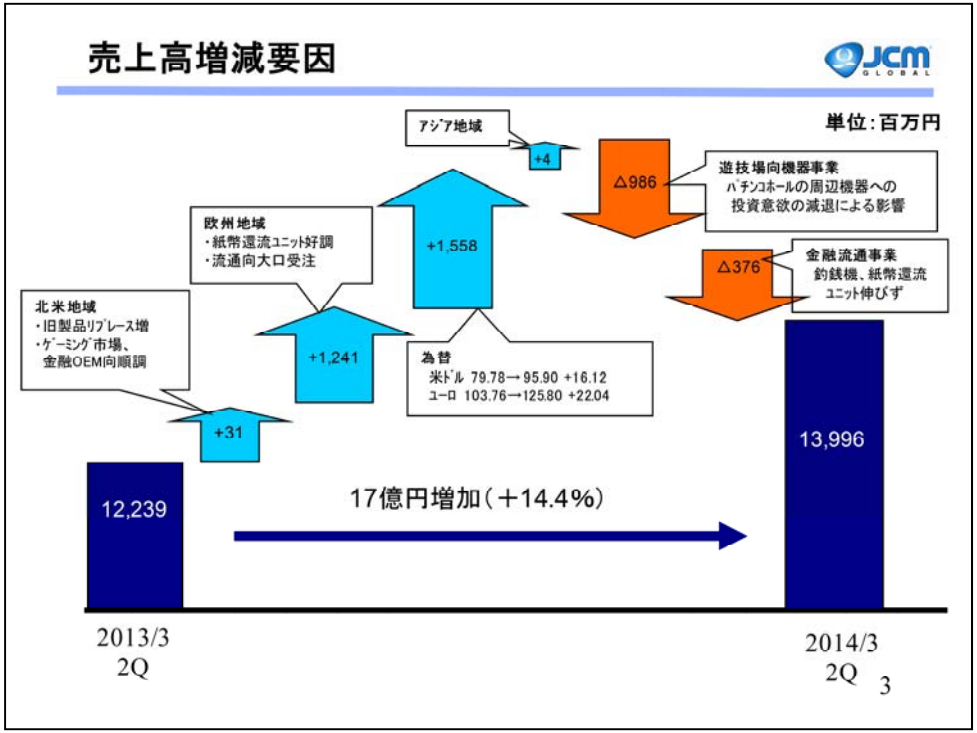
以上の状況のもと、2014年3月期　第2四半期累計の業績は、ご覧の資料のようになりました。

売上高は　139億96百万円　となり、前年同期比では14%の増収となりました。

利益面では、

営業利益は、前年同期比14% 増の9億81百万円、
経常利益は　同じく　43%増の11億2百万円、
そして、第2四半期累計純利益は22%増の6億71百万円

となりました。

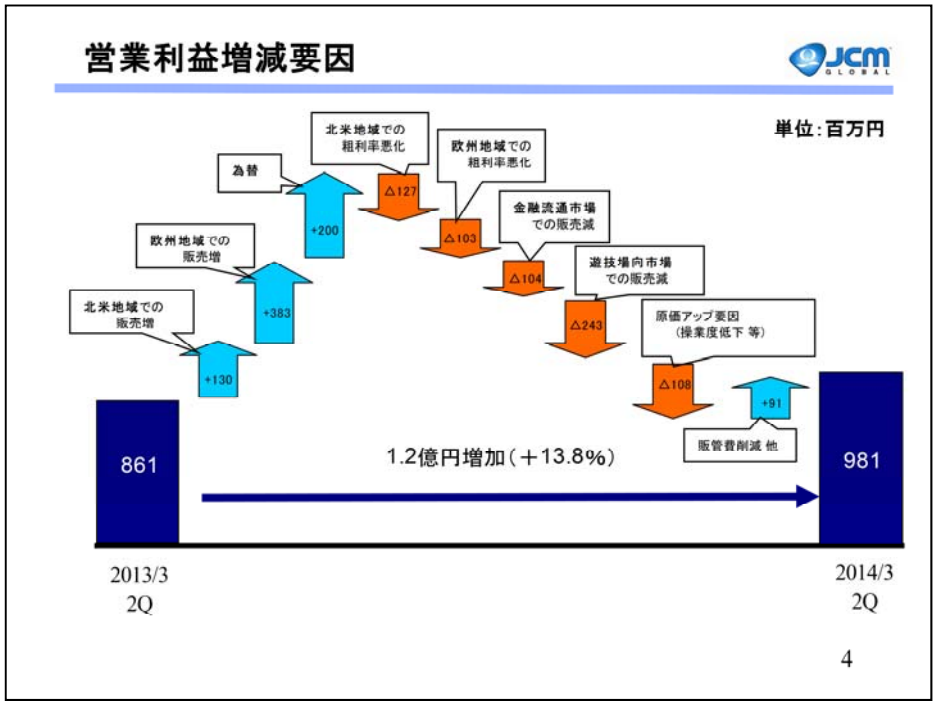


３ページでは、売上高の主な増減要因を示しております。

セグメント別の詳細は、のちほど、ご説明申し上げます。

北米、欧州の海外部門が好調に推移し、
為替要因を含めて、大きく業績を牽引いたしました。

その結果、売上高は前年同期比　１４．４%増の
１３９億９６百万円となりました。



４ページでは、営業利益の主な増減要因を示しております。

３ページのセグメント別の売上高の増減に関する要因が主なものであります。

海外、及び国内市場でマイナス要因もありましたが、海外市場全体での増収効果により営業利益は、前年同期比　１３．８%増の９億８１百万円となりました。

2014年3月期　第2四半期累計セグメント別売上高

単位：百万円

		2013/3 2Q累計実績	2014/3 2Q累計実績	前年同期比増減率	期初予想	期初予想比増減率
日本地域	売上高	7,992	6,666	—		—
	外部売上高	6,179	4,817	-22.0%	**5,540**	-13.1%
	セグメント利益	298	260	—		—
北米	売上高	3,972	5,185	—		—
	外部売上高	3,955	5,134	+29.8%	**4,750**	+8.1%
	セグメント利益	273	394	—		—
欧州	売上高	1,995	3,923	—		—
	外部売上高	1,989	3,915	+96.8%	**3,570**	+9.7%
	セグメント利益	198	587	—		—
アジア	売上高	4,343	4,899	—		—
	外部売上高	114	128	+12.3%	**40**	—
	セグメント利益	114	155	—		—
調整	売上高	△ 6,064	△ 6,677	—		—
	セグメント利益	△ 117	△ 295	—		—
連結	売上高（外部）	12,239	13,996	+14.4%	**13,900**	+0.7%
	経常利益	768	1,102	+43.4%	**970**	+13.6%
海外売上高		49.5% 6,060	65.5% 9,178	+3,118	60.1% 8,360	+818

（注）調整額には、セグメント間の内部売上高に係る消去額及び報告セグメントに直接賦課できない費用等が含まれております。

5

次に、２０１４年３月期第２四半期累計業績について、ご説明いたします。

日本地域を除く海外部門は、売上の増加に伴い、大幅な増益となりました。

セグメントごとの外部売上高と、その状況については、次ページ以降でご説明いたします。

2014年3月期　第2四半期累計セグメント別（北米地域）

単位：百万円

		2013/3 2Q累計	2014/3 2Q累計		増　減	
		実績	期初予想	実績	前年同期比	期初予想比
北米地域	外貨売上高(千ドル)	49,574	50,560	53,536	+8.0%	+5.9%
	邦貨売上高	3,955	4,750	5,134	3,962 1,179	2,976 384

（注）増減率は、外貨ベース

ゲーミング	外貨売上高(千ドル)	40,383	42,610	44,876	4,493	2,266
	邦貨売上高	3,222	4,005	4,304	1,082	298
コマーシャル	外貨売上高(千ドル)	9,191	7,950	8,660	−531	710
	邦貨売上高	733	748	830	97	82

平均為替レート（ドル/円）	79.78	94.00	95.90	＋16.12	＋ 1.90

【概要】

・新規設置台数増に伴うスロットマシンOEMからの受注が好調に推移

・旧製品のリプレイスメント需要によるカジノ向け販売の増加

・金融市場OEM先との取引が継続して好調に推移

6

ここからは、各セグメントの概要について、ご説明いたします。

まず、北米地域においては、
引き続き、東部、中西部の諸州を中心に、
レーストラックにスロットマシンが設置されたり、
VLTカジノといった形をとったゲーミング施設の新規オープンや、
既存施設の拡張がみられております。
税収を増やすという施策を採用する州が増えるとともに、
マシンの増設傾向が続いており、
その台数は、前年度実績を大きく上回る
5万数千台に達するものとみております。

また、従前に販売した旧タイプの紙幣識別機ユニットの
リプレイスメント需要や、
金融市場OEM向けの販売も好調に推移いたしました。

以上のような前期と同様の3つの要因が牽引し、
売上高は外貨ベースで、前年同期比8%の増収となりました。

2014年3月期　第2四半期累計セグメント別（欧州地域）

単位：百万円

		2013/3 2Q累計	2014/3 2Q累計		増　減	
		実績	期初予想	実績	前年同期比	期初予想比
欧州地域	外貨売上高（千ユーロ）	19,177	29,750	31,128	+62.3% 11,951	+4.6% 1,378
	邦貨売上高	1,989	3,570	3,915	1,926	345

（注）増減率は、外貨ベース

ゲーミング	外貨売上高（千ユーロ）	16,570	20,945	22,185	5,615	1,240
	邦貨売上高	1,719	2,513	2,790	1,071	276
コマーシャル	外貨売上高（千ユーロ）	2,607	8,805	8,943	6,336	138
	邦貨売上高	270	1,057	1,125	855	68
	平均為替レート（ユーロ/円）	103.76	120.00	125.80	＋22.04	＋ 5.80

【概要】
・ゲーミング：市場ニーズを反映して開発に取り組んできたリサイクルユニットの販売が好調
・コマーシャル：大手流通チェーン向けへの大口案件とGS向けの販売が好調

7

続きまして、欧州地域では、外貨ベースで、前年同期比で62％の大幅な増収となりました。大きな要因としては、2点ございます。

まず、1点目として、欧州のゲーミング市場は、北米の、例えばラスベガスでみられるような大型なカジノ施設ではなく、小規模なカジノパーラー店舗に設置されているAWP機が主であります。

この市場に対して、紙幣還流ユニットを投入し、成功を収めることができました。

当製品はAWP機だけでなく、両替機やゲーミング以外の市場においても実績を挙げつつあります。

次に2点目としては、金融・交通・流通市場で、大手流通チェーン向けに大口案件が受注できたことや、GS向けの販売が増加いたしました。

2014年3月期　第2四半期累計セグメント別（遊技場向機器事業）

単位：百万円

	2013/3 2Q累計	2014/3 2Q累計		増　減	
	実績	期初予想	実績	前年同期比	期初予想比
遊技場向機器	4,940	4,230	3,954	-20.0% -986	-6.5% -276

【概要】
・パチンコホールの周辺機器への投資意欲の減退による影響

メダル貸機

8

8ページで、遊技場向機器事業について、ご説明いたします。

パチンコホール業界の現況としては、
昨年あたりより厳しさが増すなかで、
年末年始、ゴールデンウィーク、お盆の3大商戦でも
苦戦が続いているようであります。

進行年度は、ここ2年間好調に推移していたパチスロ人気が
一段落するという市場予測をもとに、
前期を大幅に下回る計画としておりましたが、
遊技参加人口の減少、
パチンコホールの周辺機器への投資意欲の減退による影響もあり、
売上高は、前年同期比及び期初予想比で、
ともに減収となりました。

2014年3月期　第2四半期累計セグメント別（日本金銭機械）

単位：百万円

	2013/3 2Q累計	2014/3 2Q累計		増　減	
	実績	期初予想	実績	前年同期比	期初予想比
日本金銭機械	1,239	1,310	863	-30.3% -376	-34.1% -447

【概要】
・釣銭機、紙幣還流
　ユニット伸びず、減収

レジ 硬貨・釣銭機

紙幣還流装置

9

次に日本金銭機械セグメントですが、
このセグメントの外部売上高の対象となる
国内の金融・流通市場について、ご説明いたします。

当市場では、金融・流通市場に向けた紙幣識別機ユニットや、
紙幣受取払い出しの還流ユニットなどを
大手メーカーへOEM供給することを中心に活動を進めております。

進行年度は、前期に投入した
紙幣・硬貨釣銭機の新規取引先開拓などによる
更なる拡販を目指しておりましたが、
OEM先よりの、市場ニーズへの対応と、
ATMメーカーでの導入計画の遅れ等も重なり、
前年同期比、期初予想比で大幅な減収となりました。

尚、釣銭機のOEM先からの要望に関しましては
既に解消し、受注残もあることから、下半期から来期にかけて、
売上挽回に取り組んでまいります。

連結貸借対照表

単位：百万円

連結財政状態

	2012/9末	2013/3末	2013/9末	13/3末比
現金及び預金	7,185	7,810	10,130	2,320
受取手形及び売掛金	5,591	5,071	4,969	△ 102
たな卸資産	7,983	9,071	8,463	△ 608
その他	990	945	894	△ 51
流動資産 計	21,750	22,897	24,457	1,560
有形固定資産	4,085	4,831	4,923	92
無形固定資産	89	78	76	△ 2
投資その他の資産	1,554	1,642	1,662	20
固定資産 計	6,529	6,551	6,661	110
資 産 合 計	28,279	29,449	31,119	1,670

	2012/9末	2013/3末	2013/9末	13/3末比
支払手形及び買掛金	2,797	2,515	2,725	210
リース債務	181	183	193	10
その他	1,649	1,810	1,822	12
流動負債 計	4,627	4,509	4,740	231
リース債務	372	282	220	△ 62
その他	351	362	284	△ 78
固定負債 計	723	645	504	△ 141
負 債 合 計	5,351	5,154	5,245	91
株 主 資 本 計	25,881	26,574	26,947	373
その他の包括利益累計	△ 2,952	△ 2,280	△ 1,073	1,207
純資産 合 計	22,928	24,294	25,874	1,580
負債純資産 合 計	28,279	29,449	31,119	1,670

1株当たり純資産	849.81円	900.46円	959.04円	+58.58円
自己資本比率(%)	81.1	82.5	83.1	+0.6

10

次に　連結貸借対照表について、ご説明いたします。

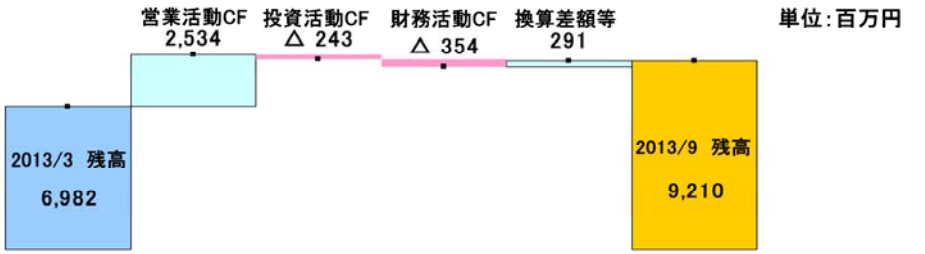
流動資産では、海外販社での販売が好調であったこともあり、
たな卸資産が6億円減少し、現預金が20億円増加したことから、
前期末比で15億円増加いたしました。

固定資産は1億円の増加にとどまり、
総資産としては16億円の増加となりました。

負債は、仕入債務の2億円の増加もありましたが、
大きな増減はなく、合計で9千1百万円の増加となりました。

純資産は、純利益に加えて、
その他の包括利益累計額が12億円増加したことから、
合計で15億円の増加となりました。

キャッシュ・フロー



	2012/3	2013/3	2013/9 2Q
営業活動によるCF	△ 729	918	2,534
税金等調整前当期純利益	1,091	1,863	1,100
減価償却費	593	563	242
売上債権の増減額(△は増加)	△ 1,267	879	558
棚卸資産の増減額(△は増加)	△ 1,992	△ 335	1,344
仕入債務の増減額(△は減少)	1,092	△ 1,357	△ 172
投資活動によるCF	△ 535	△ 166	△ 243
有形固定資産の取得による支出	△ 470	△ 285	△ 230
財務活動によるCF	△ 317	△ 537	△ 354
配当金の支払額	△ 376	△ 374	△ 300
換算差額等	△ 57	259	291
現金の増減	△ 1,641	473	2,227
期末残高	6,508	6,982	9,210

フリー・キャッシュ・フロー	△ 1,264	752	2,291

11

次に、キャッシュフローの状況について、ご説明いたします。

仕入債務の減少はありましたが、
税金等調整前四半期純利益１１億円、
たな卸資産の減少１３億円、
売上債権の減少５億円があり、
営業キャッシュ・フローは２５億円のプラスとなりました。

投資キャッシュ･フローは、
有形固定資産の取得により、２億円の支出、
また、財務キャッシュ･フローは、
配当金の支払などにより、３億円の支出となりました。

これに、現預金の換算差額２億９千万円を加え、
前期末に比べて２２億円の現金増となりました。

進行年度の予測

◇国内
・遊技場向機器事業
・店舗数、市場規模ともに縮小傾向が続くうえに、消費増税を控えて、周辺設備への投資意欲の減退

・金融流通事業
事業拡大に向け、リスタート

◇海外
・北米地域
新設スロットマシンの台数増、リプレース事業の好調等により、2006年度以来の1億$台の売上を見込む

・欧州地域
リサイクルユニットが好調に推移

・アジア
東南アジア各国での自動化・機械化への動き、次年度以降に期待

◆為替
対ドル、対ユーロで円安傾向が継続

セグメント別売上高　予想

（百万円）

	2013/3	2014/3		増　減	
	実績	期初予想値	予想	前期比	予想値比
日本金銭機械（金融流通）	2,487	+18.6% 2,950	△23.6% 1,900	△ 587	△ 1,050
遊技場向機器	9,291	− 3.7% 8,950	△ 6.9% 8,650	△ 641	△ 300
北米地域	95,077 7.616	+ 9.6% 104,250 9.800	+ 9.5% 104,155 10.100	9,078 2.484	△ 95 300
欧州地域	36,764 3,804	+20.1% 44,150 5,300	+34.3% 49,380 6,300	12,616 2,496	5,230 1,000
アジア地域	241	−17.0% 200	+ 3.7% 250	9	50
連 結	23,441	+16.0% 27,200	+16.0% 27,200	3,759	0

（補足）・北米地域の上段は千米ドル、欧州地域の上段は千ユーロ
・2014/3欄の比率は、前期実績比増減率、北米及び欧州は外貨ベースでの比較

レート（ドル）	80.11	94.00	96.97	+16.86	+ 2.97
（ユーロ）	103.48	120.00	127.58	+24.10	+ 7.58

12

12ページでは、進行年度の売上高の見通しをセグメント別でご説明いたします。

国内においては、遊技場向機器事業では、引き続き、パチンコホールの投資意欲が冷え込む可能性があること、また、金融流通事業では上半期の減収を挽回するまでには至らず、前期比、期初予想値比で大きく減収となる見込みであります。

一方、海外においては、北米地域は先ほど北米セグメントのところでご説明いたしました3つの項目が順調に推移し、期初の予想どおり2006年度以来の1億ドルを達成する見込みであります。

また、欧州地域も、リサイクルユニットの受注が好調に推移しており、期初の予想を上回るものとみております。

以上のように、前期実績、また、期初予想値に対して、国内部門が市場要因などもあり低調に推移するものの、海外部門が好調に推移し、トータルでは期初予想並の売上になるという見込みをしております。

尚、為替は、対米ドル、ユーロに対しては、円安傾向が継続するという予測をしております。

2014年3月期　通期業績予想

単位：百万円

通期業績予想

	2013/3 実績	2014/3 期初予想値	2014/3 予想	前期比 率	前期比 増減額
売上高	23,441	27,200	27,200	+16.0%	3,758
（率）	(5.7%)	(6.9%)	(6.9%)		(+1.2%)
営業利益	1,330	1,870	1,870	+40.6%	540
（率）	(7.9%)	(7.2%)	(7.2%)		(−0.7%)
経常利益	1,852	1,950	1,950	+ 5.3%	98
（率）	(6.1%)	(5.3%)	(5.3%)		(−0.8%)
当期純利益	1,432	1,440	1,440	+ 0.6%	7

1株当たり純利益	53.08円	53.37円	53.37円	+0.29円
自己資本当期純利益率	6.1%	5.8%	5.8%	−0.3%
総資産経常利益率	6.4%	6.5%	6.5%	+0.1%

平均為替レート

米ドル	80.11円	94.00円	96.97円	+16.86円
ユーロ	103.48円	120.00円	127.58円	+24.10円

13

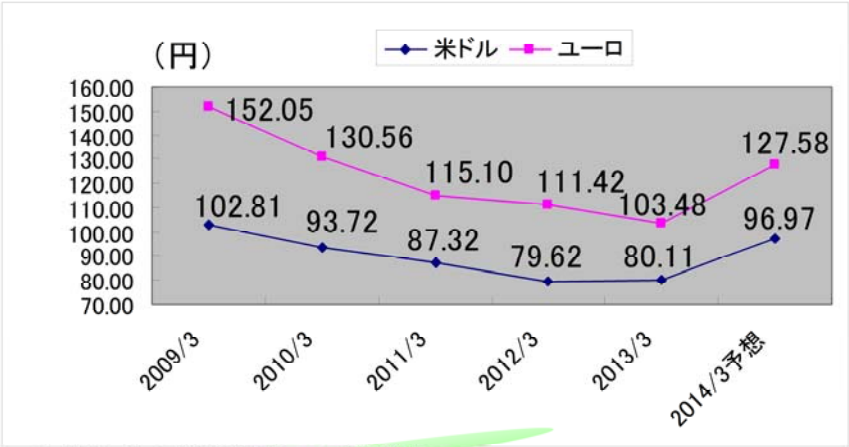
前ページの状況を踏まえた
進行年度の業績見通しといたしましては、

売上高は、前期比 16%増の　272億円、
当期純利益は前期並みの　　14億円

と、売上高、最終利益ともに
期初に公表いたしました数値のままと予想しております。

尚、下半期の為替レートは、
1ドル　98円　、　1ユーロ　128円　を想定しております。

為替の推移



1円当たりの営業利益への影響額（百万円）

米ドル	33	0	9	13（予想）
ユーロ	18	2	6	7（予想）

14

期初に進行年度の為替レートは、

米ドル　94円　、　ユーロ　120円

と想定しておりましたが、
現時点の予想では

米ドル　97円　、ユーロ　127円60銭　程度

と期初の想定よりは、円安の水準を見込んでおります。

設備投資額・減価償却費・研究開発費の推移

単位：百万円

	2012/3 実績	2013/3 実績	2014/3 計画	2014/3 2Q累計実績
設備投資額	455	351	664	241
減価償却費	599	563	535	243
売上高比率	6.0%	5.5%	5.3%	4.7%
研究開発費	1,333	1,281	1,450	658

15

設備投資額、減価償却費、研究開発費の推移につきましては、お手許の資料のとおりでございます。

研究開発費に関しては、下半期への時期のずれにより、上半期は費用の計上が少なくなっております。

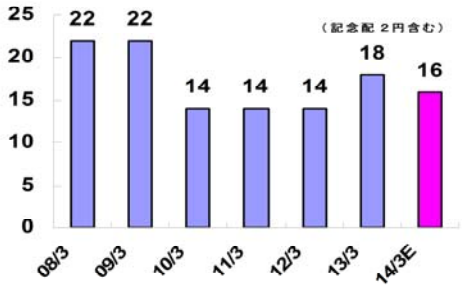
利益還元

《利益還元基本方針》

成長戦略を通じた利益拡大と株主の皆様への利益還元である配当金の安定的な実施という両面で企業価値の向上を目指していく。

- 配当性向（連結）
  30%以上
- 純資産配当率
  2.0%以上を目標

配当の推移



	08/3	09/3	10/3	11/3	12/3	13/3	14/3E
1株当たり利益推移（円）	5.3	69.4	−34.4	24.7	28.9	53.1	53.4
配当性向推移（%）	412.8	31.7	―	56.7	48.5	33.9	30.0
（普通配当のみ（%）				30.1			
純資産配当率（%）	2.3	2.4	1.6	1.7	1.7	2.1	1.7

16

次に、利益還元につきましては、
基本方針として、
連結配当性向を30%以上とすることを定めておりますので、
進行年度は普通配当として、
年間16円を予定しております。

中期経営計画

ローリングプラン(2013～15年度)

～　貨幣流通において市場と価値を創造し続ける
真のグローバル企業を目指して　～

2013年11月

日本金銭機械株式会社

17

17ページからは、昨年の10月末に策定し、
現在推進中である中期経営計画について、触れたいと思います。

中期経営計画につきましては、直近の経営環境を踏まえたうえで、
ローリングをさせて数値目標の見直しを現在進めております。

本日は、見直した数値目標についてはご提示できませんが、
これまでの取り組みの進捗状況や成果、
そしてローリングプランにおける方向性等についてご説明いたします。

中期経営計画の重点施策の進捗

① 貨幣処理機器分野において、新興国、未開拓市場への積極展開を図る

→ インド、東南アジア、ロシア・CIS諸国への展開活動をスタート

② グローバル市場規模において、これまでに培った北米、欧州市場でのゲーム機メーカー、顧客、また国内市場での大手OEM、ホール運営会社等との関係強化、さらには、新たなパートナーとの協力関係の構築を目指す

→ 既存パートナーとのより強固な関係構築と新規パートナーとの協業ビジネスが徐々にではあるが進行し始めている。

③ 新製品、新技術の開発、商品化のための積極投資を継続し、次世代の収益基盤を支える新たなビジネスの創出を目指す

→ ・テーブルゲーム用新製品、DNAの実用化に向けたテスト段階に。
・新たな提携先、M＆A案件については、継続して検討を進めております。

④ 当社グループの事業内容、規模に適応し、かつ柔軟、迅速な事業展開が可能なグループ体制の再構築に向けた取り組みを加速させる

→ H25/4～　国内販売事業を統合

18

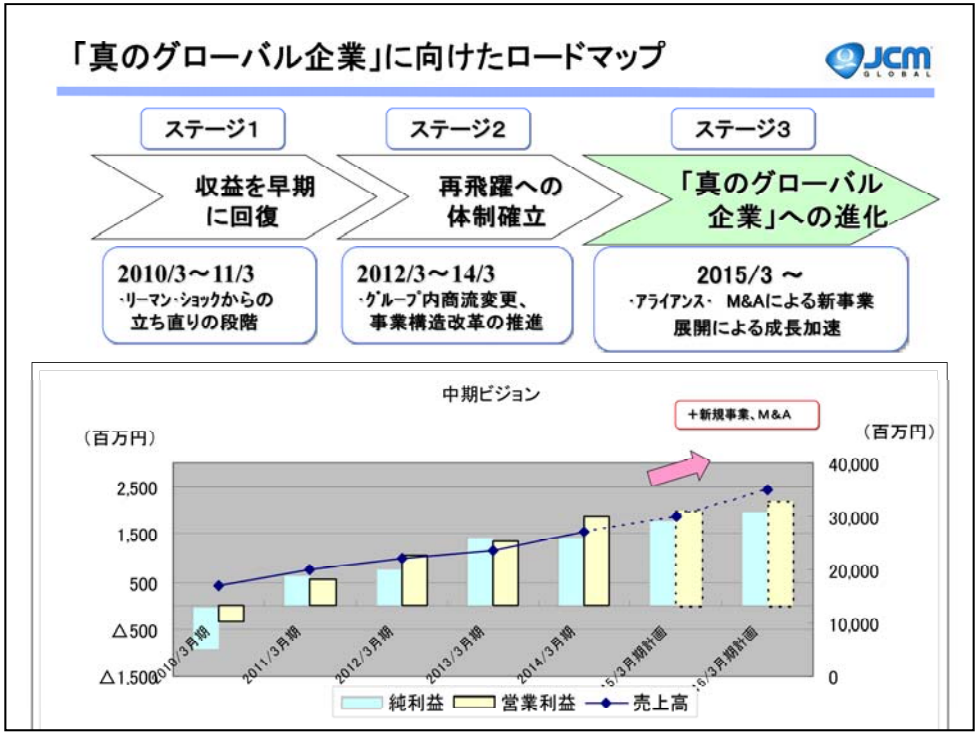
まず、昨年策定した中期経営計画の重点施策の進捗について、
ご説明いたします。

１つめの「新興国・未開拓市場への積極展開」に関しては、
インド、東南アジア、ロシアをターゲットとして、キオスクやATM市場といった
コマーシャル市場を中心に新たな取り組みをスタートさせております。

２つめの「既存のパートナーとの関係強化」に関しては、
北米のゲーミング分野では、今年の９月に世界最大手のスロットマシンメーカーであるIGT社との戦略的パートナーシップ契約を、
更に3年更新することができました。
また、米国金融向けOEM先には、
次のプロジェクトへも弊社製品の採用が決定いたしました。
一方、国内の遊技場向市場では、複数の大手ホール運営会社への環境改善機器の採用が決定し、顧客層の裾野が広がりつつあります。

３つめの「新たなビジネスの創出」に関しては、
当初の想定よりも遅れてはいるものの、テーブルゲーム向新製品や
ワイヤレステクノロジーを使用したシステムは、
それぞれフィールドテストの段階まで進んでおります。
また、新たな市場への展開を含めて、提携先、M＆A案件については、
継続して積極的に検討を進めております。

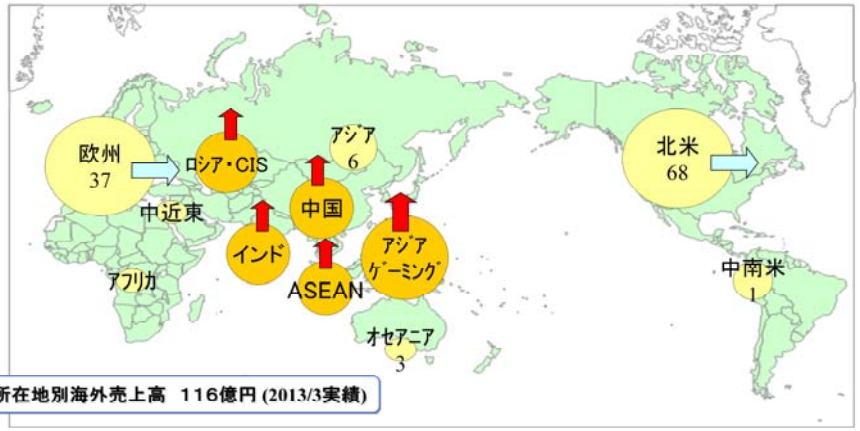
４つめの「グループ体制の再構築」の項目に関しては、
国内の販売会社を今年の４月より統合するとともに、
生産・開発などの各組織の独立採算を意識した運営形態への見直しに
着手しはじめております。



現在、弊社グループの海外グローバル部門としては、
主に事業を展開しているのは、
欧米のゲーミング市場でございますが、
更に成長を続けていくためには、
世界のそれ以外の市場への展開で成功を収めなければならず、
それを成し遂げて、始めて「真のグローバル企業」といえるものと
考えております。

よって、今回の中期経営計画ローリングプランでは、
世界市場における新規及び未開拓市場への参入と、
その市場における成長の実現による規模の拡大に、
特に注力して取り組んでまいります。

グローバル事業の拡大について



所在地別海外売上高　116億円 (2013/3実績)

アジア ゲーミング・金融・流通・交通市場、ロシア・CIS諸国における事業拡大を狙う

20

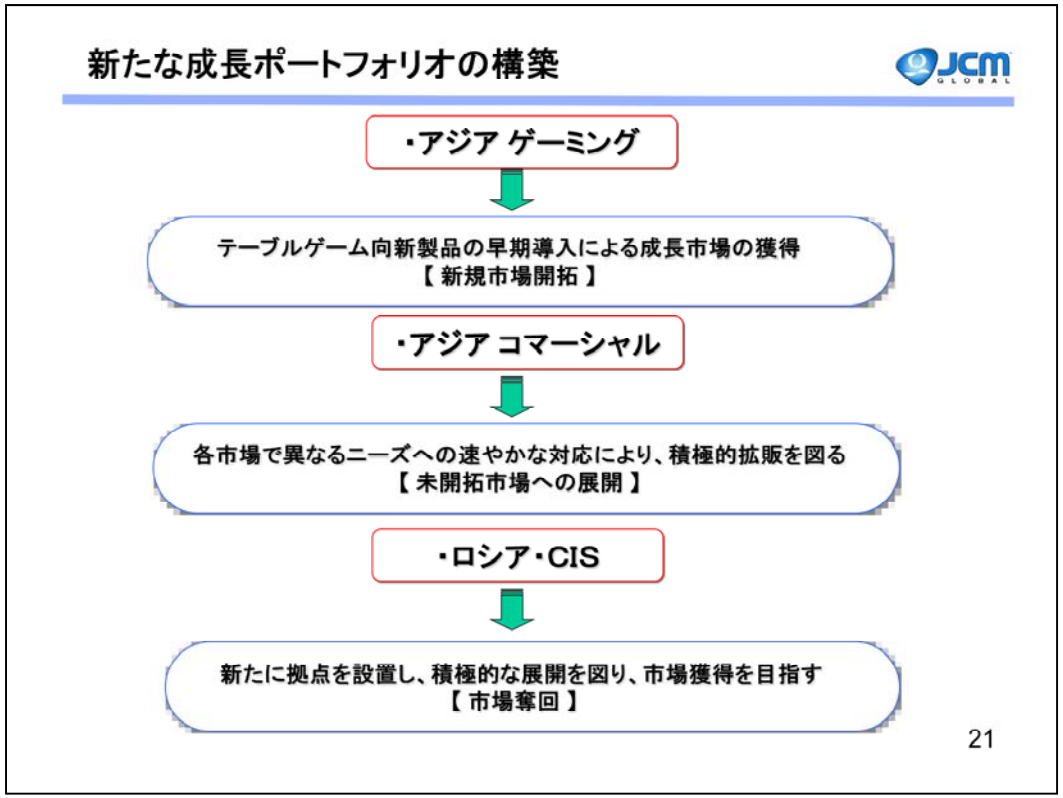
20ページの資料の黄色の部分が、
前年2013年3月期の所在地別の海外売上高の実績でございます。

ご覧のように、約90%が北米、欧州地域で計上されており、
その他の地域では、それほどビジネスを展開できていないのが
現状でございます。

今回の中期経営計画ローリングプランでは、北米・欧州に加え、
これらの地域のうち、

・「アジア・ゲーミング市場」
・「アジア 金融・流通・交通市場」
・「ロシア・CIS諸国市場」

を具体的にターゲットとして考えております。



まず１点目の「アジア・ゲーミング市場」については、
前回５月の決算説明会でもご説明させて頂きましたように
現在、世界で最大のカジノマーケットであり、
かつ今後も更なる成長が見込まれている当市場で、
メインとなっているテーブルゲーム用識別機の採用による
市場獲得に注力してまいります。

２点目として、インドを含めて将来的にみると大きく拡大することが
見込まれている「アジア　金融・流通・交通市場」では、
各市場で異なる要望に対応した製品を投入し、
市場参入に取り組んでまいります。

そして、３点目として、ロシア地域では、
７～８年前に約30万台導入された精算機が入替時期を迎えるとともに、
CIS諸国では精算機導入の動きが顕著であり、
この市場では大きなビジネスチャンスがあると考えております。

以上が、中期経営計画についてのご説明でございます。

News & Topics

国内カジノに関して

《 IR推進法案からIR実施法案にかけての流れ・手順 》

2013年度　議員立法・IR推進法案の上程予定 （今臨時国会、会期末12/6）

2014年度　通常国会で**IR推進法案可決**
- ・特定複合観光施設区域整備推進本部の設置
- ・実施法案の枠組み詳細検討・省庁間調整
- ・利害関係者などの意見の徴取・法案・法令等の起案

：

IR実施法案の上程

↓

2015年度　**IR実施法案可決** （IR推進法案可決後、1年以内）　※従来の2年から繰り上げ

↓

誘致エリア、オペレーターの選定、各種ライセンスの許認可　等々．．．

【参考】
《シンガポールでのカジノ導入に至る推移》

2005年4月　統合リゾート計画実施　閣議決定
（ 2006年2月　**カジノ法　成立** ）
- ・設置場所（2ヶ所）の決定(2005/4)
- ・入札ガイドライン公表　(2005/11)
- ・入札〆(2006/3)
- ・落札者決定(2006/6,12)

⇩

2010年　**オープン** (2月 ｾﾝﾄｰｻ、4月 ﾏﾘｰﾅﾍﾞｲ)

閣議決定より、
約5年

22

続きまして、「国内カジノ」の動向について、
弊社で把握している内容について簡単に触れたいと思います。

９月中旬以降、各地でIRの実現を期する様々な団体の主催による
シンポジウムやセミナーが毎週のように実施され、
実現に向けての市場の期待感は高まりつつあるように思われます。

直近の情報としては、
超党派の国会議員でつくる「国際観光産業振興議員連盟」、
通称カジノ議連は、今週１２日に総会を開き、
カジノを合法化して解禁するための推進法案と
実施要綱案を正式に決定しました。
月内に各党の手続きを終えて、議員立法として今国会に提出、
来年の通常国会での成立を目指すようであります。

実施要綱案のなかでは、今までは「推進法施行後」2年以内といわれて
いた「実施法」の完成期限が、１年以内に繰り上げられたようで、
よりスピード感をもって、取り組まれるように見受けられます。

これも前回の説明会でご説明いたしましたが、
国内でカジノが解禁された場合には、当社グループが
欧米のゲーミング市場で長年にわたって築いてまいりました
パートナーとの関係や、カジノ市場に関するノウハウを結集して、
設備初期投資に関するイニシャル・ビジネスや、
遊技場向事業で構築している国内の保守体制を活かした
開設以降のランニング・ビジネスに参入できるように、
取り組んでまいりたいと考えております。

本件に関連して、今回は、海外のゲーミング市場において、
弊社グループの強みとして挙げられると思われる
「ゲーミング・ライセンス」について少し触れたいと思います。

米国においては、弊社が販売しております紙幣識別機については、
ゲーム機メーカーへ部品を供給する場合には
ライセンスは不要でありますが、
直接カジノホールへ販売する場合には、
『ゲーミング機器販売ライセンス』が必要となります。

ライセンス許可の基準は、州によって若干異なりますが、
審査に当たっては、会社の業績や業況の調査はもちろんのこと、
役員の資産状況や、犯罪歴のチェックなど
個人情報にまで及ぶなど、
その内容は相当に厳しいものであります。

しかし、弊社はさまざまな状況においても販売を可能とするために、
ゲーミング・ライセンスの取得に注力してまいりました。
その結果、今年9月末時点で、米国では31の州と2つの地域、
カナダの4つの州で、合計186のライセンスを取得しております。

カジノ議連は、「カジノ運営業への参入はハードルを高く設定し、
誰もが単純に免許を取得でき、参入できることにはならないことを基本
とする。適切な規制と法の執行があれば、カジノが犯罪の温床になる
ことはありえない」と明言しているようで、カジノの管理をラスベガス型の
独立委員会の設置の方針を持っているようであります。

いかなる制度になった場合でも、北米での取り組みを活かし、
対応していけることができるものと考えております。

最後になりますが、リーマン・ショック以降、
前期まで3期連続で『増収・増益』を達成し、
進行年度もその流れを継続できるように下半期、
全社を挙げて諸施策に取り組んでまいりたいと考えております。

また、現在見直しを進めております　中・長期の視点での、
市場別、また分野別の戦略について、
そして目標損益数値につきましては、
年内にご説明できるようにいたします。

以上、進行年度の上半期の決算の概要と通期の見通し、
そして中期経営計画の取り組み状況等についての
私からの説明を終わります。

ご静聴いただき、ありがとうございました。